



# 日本SPF豚協会だより

2026.1  
No.102

## 提 言

## 「年頭所感(30年を振り返って)」

日本SPF豚協会副会長  
全農畜産サービス(株) 代表取締役

**米倉浩司**



新年明けましておめでとうございます。2026年、午年を迎えました。今年は午年でも60年ぶりの<sup>ひのえうま</sup>丙午です。当時は迷信の影響もあり前年より50万人も少なかったようです。その後、1973年(S48)の2,092千人をピークに出生数が減少に転じ、2016年(H28年)に100万人を切り、2023年は727千人となっています。さて今年はどうなるのでしょうか。

前置きが長くなりましたが、私は1991年(平成3年)に全農に入会し、養豚に携わるようになったのが1994年(平成6年)からです。獣医師でも専門家でもありませんが、飼料設計や営業、糞尿処理、研究開発などの経験をしました。30年を振り返ると「疾病との闘い」と「生産性向上の追求」が日本の養豚を支えてきたと強く感じます。

1994年当時、豚飼養戸数は22,100戸、母豚は100.8万頭でしたが、2024年には3,310戸、75.8万頭へと大幅に減少しました。一方で国内豚肉生産量はほぼ維持され、母豚1頭当たりの産肉能力は飛躍的に向上しました。離乳頭数も当時は18~20頭前後で22頭を目標にしていたのですが、現在は28~30頭以上を目指す水準となり、海外ハイブリッド導入や育種改良技術の成果が大きく寄与しています。関係者の皆様の並々な努力や研究による技術革新があったからです。今後は抗病性や耐暑性を備えた育種にも期待が寄せられます。

豚肉自給率は1994年の66%から2024年には48%へ低下しましたが、輸入増により一人当たり消費量は13.2kgへ増加しました。このうち家計消費7.7kgであり、国産豚肉が約6kgだと試算されています。協会でも豚肉レシピを紹介していますが、国産豚肉の魅力を消費者に伝える活動を強化し、食卓に安心と豊かさを届けることが、産業全体の発展につながると思います。

少子化と労働力不足は避けられず、省力化技術の開発が急務

です。外国人労働者の増加に伴う言語の壁は、AI同時通訳の飛躍的な進歩により、専門用語や方言の克服が期待されます。

疾病面では1990年代初期にヘコヘコ病と呼ばれた豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)、続く95年頃からのサーコウイルス(PCV2)に対して、分析技術の進展とワクチン開発技術が養豚産業を支えてきました。そして直近のアフリカ豚熱(ASF)のワクチン開発の進展にも期待しています。今後も新たな変異株に対して研究者の英知との競争が続くでしょう。ここは専門家にお譲りします。

生産方式も連続飼育からオールインオールアウトへ、グループシステムの導入など大きな変革がありました。温・湿度や空調コントロールがしやすいウインドレス豚舎の普及など一気に加速した感があります。これから最新の飼養形態はどのように進化していくのでしょうか。ここにも労働力不足による建設費の高騰が気になるところです。

環境面では2005年(平成17年)の環境3法施行に伴い堆肥舎や浄化槽が整備されましたが、20年を経て老朽化が進み、更新需要が高まっています。硝酸態窒素規制や温室効果ガス削減も新たな課題です。機能強化のための施策も期待したいところです。

また食肉処理施設も老朽化と人材不足が顕在化しており、今後の動向に注視したいと考えています。畜産農家の負担にならないように配慮をお願いしたいところです。

AW(アニマルウェルフェア)やAMR(薬剤耐性菌)対策も重要であり、養豚産業を取り巻く課題はますます高度化・複雑化しています。生産者が理解しやすい形で情報を整理し発信することは、日本SPF協会の役割でもあると思います。微力ながら貢献できればと思っています。

# SPF豚セミナーは 1月19日に開催

## 農場労働不足問題対策を主題に、 農場表彰には新たな部門も創設

令和7年度のSPF豚セミナーは、1月19日（月）、東京都千代田区のKKRホテル東京にて開催いたします。開催要項は次ページの通りです。

今回も、会場参加とオンライン参加のハイブリッド方式といたしました。会場は70名、オンライン参加90名限定です。懇親会も実施いたします。

会員の皆さんはもちろんどなたでもご参加いただけますが、参加費は会員と会員外で金額が異なりますのでご注意ください。

今回のセミナーの講演は、「養豚場における労働力不足対策」にテーマを絞りました。農場における慢性的人手不足は認定農場も例外ではないと思います。

まず、農業など一次産業の現場でスポットワーク（スキマバイト）の活用に力を入れている（株）タイミーの吉田裕希さんに、養豚農家のためのスポットワーク活用についてご講演をお願いしています。タイミーはテレビCMなどでもよく知られる、利用率No.1を誇る仲介のトップ企業です。農業部門の専門チームを立ち上げ、畜産業でも導入の実績を増やしています。活用の仕組みやメリット、具体的な事例などをご紹介します。

続いての講演は、農業人材支援企業のパイオニアとして農業分野における人材不足解消をめざすYUIME（株）の江城嘉一常務取締役、外国人特定技能制度について解説いただきます。YUIMEは特定技能派遣事業・登録支援事業において日本で最初に認可を受けたフロントランナー

です。狭き門として知られる特定技能2号合格者を多数輩出している専門家に、新制度および特定技能についてわかりやすく解説いただきます。また、協会が行った会員農場の労働力確保についての聞き取り調査についてもご紹介いたします。

恒例の農場表彰式も執り行います。今年で19回目となる成績優秀CM農場表彰は、昨年11月25日に開かれた農場表彰選考委員会で総合生産成績部門・商品化頭数部門それぞれの最優秀農場が決定、表彰状と記念トロフィーが授与されます。

また、今回より新たな賞が創設されました。名称は「選考委員長特別賞」です。成績のみではなく、農場の持続発展に向けて、さまざまな試みや創意工夫を続けてきた農場の努力を評価するものです。各ピラミッドから推薦された農場について選考委員会で協議の結果、3農場に授与されることとなりました。当日は選考委員長の濱岡隆文認定委員長より賞の趣旨説明と講評をいただき、表彰状とトロフィーを授与いたします。

セミナー終了後には、毎年好評の懇親会も実施いたします。貴重な交流、情報交換の場となると思います。SPFポークのしゃぶしゃぶや加工品も用意する予定です。なお、会員以外の方は懇親会込みの参加費となっております。

人数も限定しておりますので、開催要項を参照の上お早めにお申し込み下さい。多くの方のご参加をお待ちしております。

## 令和7年度SPF豚セミナー開催要項

開催日時：2026年1月19日（月） 13：00～17：00

場 所：KKR HOTEL TOKYO（東京都千代田区大手町1-4-1） 11階「白鳥の間」

### <プログラム>

開会のあいさつ.....13：00～13：05

1) CM認定農場生産成績年次報告（2024年度）.....13：05～13：35

日本SPF豚協会

2) 生産成績優秀CM農場表彰.....13：35～14：35

選考結果報告・講評 濱岡隆文・表彰農場選考委員長

表 彰 総合生産成績部門最優秀農場

商品化頭数部門最優秀農場

選考委員長特別賞農場（新設）

休 憩.....14：35～14：50

3) 事例発表「会員農場における労働力確保の実情について」.....14：50～15：05

日本SPF豚協会

4) 講演「現場がラクになる！養豚農家のためのタイミー活用術」.....15：05～16：00

講師：(株)タイミースポットワーク研究所・吉田 裕希氏

5) 講演「技能実習、終わったその先へー特定技能2号合格多数実績ありの専門家が語る

“新制度&特定技能” まるわかり」.....16：00～16：55

講師：YUIME(株)常務取締役・江城 嘉一氏

閉会のあいさつ.....16：55～17：00

懇親会.....17：00～19：00

<参加費> 協会会員：セミナー無料、懇親会費5,000円 会員以外：10,000円（懇親会費含む）

### <お申し込みについて>

右のQRコードまたはURLから申し込みサイトにアクセスしてください。

折り返し事務局よりご連絡差し上げます。自動返信ではありませんのでご了承ください。

<https://docs.google.com/forms/d/1UMZWkRArLK9jm7I9NcMLZEDoQTajwdHJ3U8VzaSx-58/edit>



FAXでも  
お申込みいただけます。

FAX.  
**03-5835-5376**

①所属・お名前

②メールアドレスまたは連絡先

③実参加・オンライン参加のいずれか ④懇親会参加・不参加のいずれか

を明記の上、左記までFAXをお送り下さい。

折り返し事務局よりご連絡差し上げます。

アドレス等お間違えのないようご注意の上お申し込みください。

会場参加70名、オンライン参加90名になり次第締め切らせていただきます。

### <問い合わせ先>

協会事務局 [j.spf.a@nifty.com](mailto:j.spf.a@nifty.com) TEL.03-5835-5375, 070-4108-3825

## 新連載

衛生実践  
養豚学

## 第1回

バイオセキュリティ  
強化東京農工大学  
名誉教授

竹原一明

2018年秋からの豚熱の発生は、野生イノシシの関与もあり、2019年秋からワクチン接種に踏み切りましたが、未だに発生が続いています。ただ、農場HACCP認証農場ではこれまで発生していないと言う事実があります。これはバイオセキュリティ強化が重要であることを示しています。

バイオセキュリティは“外部バイオセキュリティ”と“内部バイオセキュリティ”に分けられます。なお、バイオセキュリティはその手法から、“物理的障壁”と“化学的障壁”に分けられます。野生動物侵入防止のための衛生管理区域を囲む塀や柵、畜舎の壁、ネット、病原体をヒトが持って入らないような工夫のための衛生管理区域に入る際の衣類・長靴交換、手袋装着、必要に応じたシャワーイン・アウト。これらの手法は“物理的障壁”です。それに対し、農場内に入る際の車両や物品の消毒、衣類・長靴の消毒、手指消毒など薬品を用いたバイオセキュリティが“化学的障壁”となります。

海外悪性伝染病など、養豚場内で感染が認められた場合には、農場内の全頭殺処分となることから、外部からの侵入防止は必須です。この“外部バイオセキュリティ”強化のためには、柵に代えて塀で隙間が無いようにすることが効果的です。また、豚熱ワクチン接種農場においては、繁殖豚や肥育豚に仮に豚熱ウイルスが入り込んでいたとしても、症状を示さないで、わかりません。そこにワクチン未接種や接種直後で十分に免疫ができていない離乳豚が曝<sup>さら</sup>されると、発症します。また、繁殖豚や肥育後期豚には様々な慢性感染症の病原体が存在します。これらを考慮すると、ステージごとに分離して飼育する、すなわち、豚舎ごとの衣類・長靴交換が重要となります。これは“内部バイオセキュリ

ティ”強化です。飼養衛生管理基準では、2020年から「畜舎ごとの専用の衣服（大臣指定地域に限る。）及び靴を設置し、畜舎に入る者に対し、これらを着実に着用させること。」とあります。ただし書きに、「衣服又は靴が畜舎外において病原体に汚染する可能性がない状況で行う畜舎間の移動については、この限りでない。」とありますが、渡り廊下などで繋がっていても、内部バイオセキュリティ強化のためには、交換が必要です。大事なことは、ステージごとに管理し、慢性感染症を含む病原体の豚群間での伝播を防止することです。

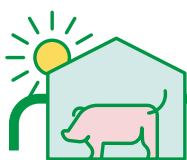
2025年8月の35℃を超える暑い日に、各豚舎の入口に簡易前室を作り、そこで衣類・長靴交換をしている養豚場を見学させていただきました。屋根や壁が付いているので、雨の日でも風の日でも確実に交換が可能です。分娩舎から離乳舎に移動する際には、子豚は通路を歩き隣の豚舎に行きますが、管理者は通路までで、あとは離乳舎の人が管理することになっており、同じ衣服・長靴で隣の豚舎に行かないよう、ルールができているとのことでした。この様に管理することで、慢性感染症も減り、生産性も向上したとのことでした。衣類・長靴交換に対して、面倒くさいと従業員からの苦情はないか尋ねたところ、確かに夏の暑い日は大変ですが、豚を大事に管理することが皆の共通の理念なので、きちんとやっているとのことでした。外部バイオセキュリティと内部バイオセキュリティ強化は、重要です。



長靴交換

踏み台手前（写真では上側）で長靴を脱ぎ、中用の長靴に履き替える。中用の長靴は、使用後、一番下の水槽で汚れを落とし、消毒薬の入った踏み込み消毒槽（水槽の上）に次に使うまで浸漬しておく。





## 農場における労働安全衛生②

### トイレについて

養豚場における労働安全衛生というと、おもに労災防止の観点から、労働安全衛生規則に定められたホイールローダーやフォークリフトの定期点検や技能講習、作業計画などを中心に考えがちですが、今回は、事務所のあり方に関する法令についてみていきます。これは事務所衛生基準規則(事務所則)といって、昭和47年に労働安全衛生法にもとづき定められたものです。

養豚場においても事務所があり、パソコンを用いたデータの管理や帳簿の記録といった作業をそこで行うのであれば、この事務所則にしたがった運用をする必要があります。

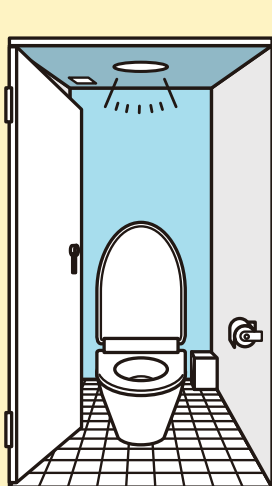
令和3年のこの規則の改正において、「便所」をどのように設置するか基準が変わり、厚生労働省労働基準局長通知により、その趣旨について説明がなされています。なお、事務所以外の作業場の便所についても労働安全衛生規則第628条で同様に定められています。

もともと、作業場に設置する便所については、作業場の規模にかかわらず男性用と女性用に区別することが原則となっています。ところが、住居用の集合住宅の1室を事務所として使用する場合、便所が1つしかなく、男性用便房、男性用小便所、女性用便房のすべてを設置することが困難な場合があります。そこで「独立個室型」の便所を設置すれば、労働者が10人以内である場合に限り、「男女別に設置する必要がない」という例外規定が定められました。

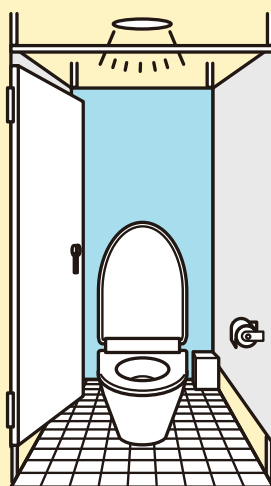
ここで問題となるのは、「独立個室型」の便所はどんなものかということです。つまり、その便所単独でプライバシーが保護されていることであり、便房の上部や下部に隙間のある壁で囲まれた便所であってはいけない、ということです。壁は、視覚的、聴覚的観点から、全方向から便所内部が外部から容易に知覚されない堅牢な壁や扉でなければなりません。さらには、一個の便房を男女が共用することに伴う風紀上の問題や、心理的な負荷についての対策を衛生委員会等で定めておくことが望ましいとされています。

養豚場の職場も女性の力なしでは成り立たない時代になっています。働きやすい職場をめざして、農場のトイレの問題についても皆さんで話し合って進めていただきたいと思います。

#### ▶「独立個室型の便所」とは



OK



NG

- ✓ 男性用と女性用に区別せず、単独でプライバシーが確保されている
- ✓ 便所の全方向が壁等<sup>\*</sup>で囲まれ、扉を内側から施錠できる構造である
- <sup>\*</sup>視覚的、聴覚的観点から便所内部が便所外部から容易に知覚されない堅牢な壁や扉のこと。
- ✓ 1 個の便房により構成されている
- ✗ 仕切り板又は上部もしくは下部に隙間のある壁等によって構成されている

# 協会からのお知らせ

## ●次世代交流会が開催されました

前号でお知らせしたとおり、昨年10月3日(金)、garage 666(東京都千代田区)において、次世代交流会が行われました。次代の協会を担う若手にSPF養豚・協会事業に対する知識や理解を深めてもらうことを目的に始まり、3回目となった今回は、会員農場と直接かかわるピラミッドの若手を中心に参加いただき、自らの体験や業務内容を発表する場としました。いずれも自身の業務を理解し目的意識をしっかり持った内容の発表ばかりで大変頼もしいものでした。発表後の懇親会については、「組織を越えて同世代と交流ができた」「刺激を受けた」「有意義だった」といった感想が多数寄せられ、貴重な機会になったようです。ご参加いただいた皆さん、ご協力いただいたピラミッドの方々、ありがとうございました。今後も協会の重要な事業と位置づけ、継続・発展させていきたいと思っておりますのでご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

出席者は下記のとおりです(順不同・敬称略)。

茂呂明夫(ホクレン苫小牧支所)、池 綜哲(伊藤忠飼料(株)東日本飼料事業部)、大川原佳伸(全農畜産サービス(株)種豚事業部)、

清水 瞳(株)サンエスブリーディング)、高森正太郎(日本農産工業(株)九州支店)、本郷 栄基(全農畜産サービス(株)種豚事業部)、林 未菜(株)サンエスブリーディング)、江藤 真生(株)シムコ東日本営業所、代理による資料発表のみ)



前列左より清水瞳さん、林未菜さん、鷺谷敏一・協会会長  
後列左より本郷栄基さん、茂呂明夫さん、大川原佳伸さん、池綜哲さん、高森正太郎さん

## ●理事の交代

組織内人事異動により、(株)ファームテックえびの種豚場の高橋真之理事が枝邦治氏に交代いたしました。

## ●訃報・(有)芳寿牧場の平芳紘会長が逝去

昨年11月2日、認定農場・有限会社芳寿牧場(長崎県口之津町)の平 芳紘会長が逝去されました。享年83。平さんには協会が任意団体時代には総代を、法人化以後は代議員をずっと

とお務めいただき、本当に長い間協会を支えていただきました。ありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。

## 認定情報

### ●2025年12月認定農場

(有効期間：2025年12月11日から26年12月末日まで)

北海道・ホクレン滝川・スワインステーション、全農飼料畜産中央研究所上士幌種豚育種研究室、(有)道南アグロ、富良野スワインファーム(有)、(有)サクセス森、青森県・(有)ふなばやし農産繁殖農場、同子豚農場、同肥育農場、同第3農場、岩手県・(株)ケイアイファーム玉山農場、(株)さいとうふぁーむ繁殖農場、同肥育農場、(有)胆沢養豚、カワムラSPFファーム、北日本JA畜産(株)本社農場、秋田県・(有)ポークランド、山形県・(有)最上川ファーム、茨城県・(有)常陸牧場、ピッグファームゴカン、千葉県・(株)愛東ファーム銚子農場、同東庄農場、(株)知

※次回認定委員会は2026年3月5日(木)の予定

恩園、小長谷養豚、(株)SB-Lab第3、(株)下山農場岩井農場、同倉橋農場、岡山県・岡山JA畜産(株)吉備農場、同田淵農場、愛媛県・太平洋ブリーディング(株)大川農場、同丹原農場、(有)協栄ファーム久万C&Pファクトリー、同丹原C&Pファクトリー、大分県・JA北九州ファーム(株)直入農場、同安岐農場、長崎県・大西海ファーム、(有)芳寿牧場口之津牧場、同国見牧場、同島原農場、同新島原農場、同新国見農場、(有)ワールドファーム有明農場、同瑞穂農場、宮崎県・ジャパンミート(株)夏尾農場、(有)ナガトモ、鹿児島県・ジャパンミート(株)湧水農場(以上45農場)



豊橋飼料(株)種豚センター  
山本 拓さん  
(千葉県茂原市)

## バイオセキュリティ100%はない 努力を惜しまず、常にベストを目指す場長

千葉県茂原市にある豊橋飼料(株)種豚センターは、日本農産工業ピラミッドの、協会で最も新しいGP農場です。種豚供給農場として稼働していましたが、千葉県で猛威を振るったPEDが侵入、SPF豚農場として再建することを決意、オールアウト・施設整備を経て、2020年にSPF認定を取得しました。

現場責任者を勤める山本拓さんは地元・千葉県八街市出身、農業高校で生物工学学科で実験動物などの飼育などに関わったそうです。豚も実習などでなじみがあったとのことですが、卒業後農場に入社。種雄豚の大きさに驚き、農場の先輩たちに教わりながら、肥育部門からスタートしました。当時は今のような機械化が進んでおらず、「とにかく餌やりと除糞に時間がかかり体力的にきつかったですね」。場内の寮に住み、夜の見回りなどもあったのですが、職場の雰囲気がよく、仕事がきついても辞めようとは思わなかったそうです。

農場設備の改善や自身の管理技術の向上もあって仕事が面白くなってきた矢先、分娩舎でPEDが発生しました。下痢の症状が著しく「とにかく初めてのことで、明らかにそれまでとはちがった」そうです。子豚は淘汰、母豚はオールアウトとなり、「疾病の怖さを実感しました」。

その後、SPF豚農場として再建されることとなり、当時の場長や獣医師の指導の下、フェンス等豚舎の整備が進められました。SPF養豚は知識としてはありましたが、実際の消毒・洗浄の徹底や動線の確認等、防疫設備・管理の徹底ぶりに「ここまでやらないと病気は防げないんだと思いました」。今はバイオセキュリティに100%はない、とし、たとえば消毒にしてもこの方法がベストかどうか、セキュリティ的に高められるものはないのか、日々情報収集しているそうです。

2024年8月、定年退職した前場長の後を受けて場長に就任。この年の猛暑の影響で成績が悪化、2025年は対策を強化し、分娩舎へのクーリングパッドの設置等で効果があがり回復してきました。温暖化もあって、冬は大きく気温が下がることがなく凍結もないので「やはり夏場が一番大変です」。

今は管理業務が7割以上と現場作業に時間を割けないのが悩みそうです。「早く慣れて現場をしっかり見たいですね」。人員



もぎりぎりでやりくりも大変で、募集は常に出していますが、いずこも同じ、なかなか応募はないそうです。

仕事一筋の山本さんですが、学生時代剣道に打ち込んだ時期もあったとか。剣道の試合の判定は素人にはまったくわかりませんが、と聞くと、「そうですね。寮にいたころ、たまたまみんなで剣道の試合を見ていたんですが、判定が先にわかるので驚かれましたね。反応が面白かったです(笑)」。武道つながりで弓道にも興味があるそうです。

現在の趣味は?と伺うと「網戸ツット」という聞きなれない言葉が。網戸の網目をゲームのドットに見立て、絵具でキャラクターを描くものだそうです(写真参照)。見事な出来栄えは細かい作業を丁寧に行う人ならではの、です。ちなみに「くもの巣」の標本も作ったとか。こちらも続けたいとのことでした。

まじめに豚と仕事に向き合う山本さん、お話を伺っている最中、ひっきりなしにかかってくる電話からも、業務の大変さと、誠実な人柄がうかがわれました。

(編集部)



洗浄が徹底された豚舎の内部



山本さんによる「網戸ツット」作品



## プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



### SPFポークの やわらか煮込みハンバーグ きのこソース

●レシピ提供・一灯庵 新千歳空港店(北海道千歳市)

料理長 井戸 司

年明けともなると寒さも本格的。定番とはいえ煮込みハンバーグのような温かいメニューが恋しくなりますね。きのこ白ワインがメインのソースはSPFポークにぴったりかも。チーズも合いそうです。ぜひお試しください。

#### ●材料●(2人前)

SPF 豚ひき肉 300g  
玉ねぎ 1個  
シュレッド(細かく裁断された) チーズ 20g  
ベビーリーフミックス 適量

#### <A(下味用)>

卵 1個 塩 ひとつまみ  
パン粉 60g こしょう 2〜3ふり  
牛乳 大さじ3 マヨネーズ 大さじ1  
ナツメグ 2〜3ふり

#### <きのこソース>

しめじ 1パック ケチャップ 大さじ2  
白ワイン 100cc 中濃ソース 大さじ2  
水 200cc 塩 適宜

#### ●つくり方●

- ① 玉ねぎはみじん切りにして分量外のオリーブオイル 20cc と塩ひとつまみでしんなりするまで炒め、バットに移して冷ましておきます。
- ② ボウルにひき肉と、混ぜ合わせておいた A を入れてしっかりとこね、好みの大きさに分け、空気を抜きながら形を整えます。
- ③ フライパンに少量のオリーブオイル(分量外)を入れ、②を両面焼き、しめじと白ワインを入れて強火でアルコールを飛ばしたら、ふたをして弱火で8分ほど蒸し焼きにします。
- ④ 水、ケチャップ、中濃ソースを加えて中火で煮込みます。途中ハンバーグを裏返しつつ、煮汁がちょうど良い濃度になったら塩で味を整えます。
- ⑤ 竹串を刺してハンバーグによく火が通った事を確認してから皿に盛りつけ、シュレッドチーズを乗せ、一度レンジで温めてチーズを溶かします。
- ⑥ 上から残ったソースをかけて、ベビーリーフミックスを添える。

#### ★井戸シェフからのアドバイス

玉ねぎは粗めのみじん切りでも甘みをストレートに感じられて美味しいです。しめじ以外でも、きのこならなんでも美味しく出来るのでぜひ作ってみてください。

## 編集 後記

新年おめでとうございます。衛生というのは、生(いのち)を衛(まも)るということです。SPF豚はその成り立ちから衛生問題とは密接な関係があります。本号から新たに、東京農工大学獣医学科獣医衛生学研究室の前教授、竹原一明先生に、消毒をはじめとするバイオセキュリティ強化対策や農場における病原体の野外調査、性状解析などの知見を連載いただくことになりました。10回の予定です。読者の皆様から、こういう話が聞きたいとか、あれはどうなっているのだろうというようなお便りをお寄せくだされば、竹原先生と相談しながら進めますのでよろしくお願いいたします。(鷺)

随分前のことですが、夜明け前の東北の林道で車の前を大きな黒い塊がさっと横切っていました。この時初めてクマを見ましたが、当時は怖いとも思わず近くの沢で遊んでいました。向こうが先にこちらに気づいて避けてくれると勝手に思っていたのですが、近頃はそうしたルールをわきまえたクマばかりではないようです。普通、春までは冬眠期間ですが、そもそもクマはエサが豊富であれば冬眠する必要はないようです。優れた嗅覚を持ち、食べ物に執着心強いクマに農場が目をつけられないよう十分ご注意ください。今年も良い年になりますように。(岩魚)



### 日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは  
日本SPF豚協会の  
登録商標です

### 日本SPF豚協会だより

第102号 2026年1月1日発行(季刊)

発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2

TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376

e-mail: j.spf.a@nifty.com

https://www.j-spf.com/

発行人 鷺谷 敏一

編集人 小林 一彦